3月5日　ルカによる福音書11章14～26節　今日の説教から
説教題：「住み心地のいい部屋を作ろう！」

今日の聖書個所では「住み心地のいいように家を片付けたら、追い出した悪霊がもっと多くの悪霊を連れて戻って来る」というイエス様のたとえ話が記されています。もちろん、家を片付けることが悪いとイエス様が言っているわけではありません。これは、前半部分で行われた悪霊を追いだす奇跡にまつわるたとえ話でありました。

今日の個所では、悪霊によって喋ることが出来なかった人がイエス様によって癒され、喋ることが出来るようになっています。今まで目が見えていなかった、耳が聞こえなかった、声を出すことが出来なかった、そのような人々に対して、イエス様は様々な物を見ることが出来るようにし、礼拝の中で御言葉を聞き、声を上げて讃美を行うことができるようにしました。悪霊がついていたことによって遠ざけられていた礼拝にも参加することが出来るようになり、彼らはそれまでとは違い、とても幸せな日々を送ることが出来たことでしょう。ただ、それにかまけて、「好き放題してしまう」ことがあれば元に戻ってしまうことになる、いえ、元あった時よりもさらにひどい状態へと変わってしまうこともあるのです。この事実のあとに、イエス様は「悪霊を追いだした後、片付けられ居心地のよくなったその人の心にさらに悪霊が住み込む」というたとえ話をしています。

悪霊を追いだしたことによって、その人の心には余裕が生まれることでしょう。ただ、私たちが家を片付けて、それでも「片づけをする習慣」を身に着けることがなければ、家は元通りに散らかってしまうことになります。時に、元よりもひどく散らかってしまうかもしれません。そう例えられるように、私たちは欲望に支配される状態から抜け出すだけではなく、神様に従う状態へと変えられる必要があるのです。悪霊を追いだしたその後、心に余裕が生まれたその隙間に、悪霊ではなく神様の霊を満たすようにしなければいけません。そのためには、聖書によって神様のことをよく知る事が、そして祈りによってそれが実現するように神様に願い続けることが求められるのです。

そして、私たちは、自分自身を空っぽにしておくべきではありません。何も置かないことでなににも縛られない、そのような生き方は、神様のことも外に投げ出してしまうような、神様に従わない生き方をすることを意味します。その生き方は、私たちにとっては居心地がいいのかもしれませんが、その部屋にはやがて「自分中心」という悪霊が幾つもの欲望を引き連れてやってくることになります。そうではなく、神様の霊に満たされて、神様の愛を感じながら、もしかすると少しばかり窮屈に感じるかもしれませんが、そこにあるのは私たちを正しい歩みへと導いてくれる神様の愛であると受け止めて、神様の喜ぶ歩みを進めていきたいものです。

この受難節の歩みの中で、自分中心の好き勝手な歩みではなく、神様に捕らえられ、満たされた歩みを、共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ルカによる福音書 11 章 14～26 節

- 14:イエスは悪霊を追い出しておられたが、それは口を利けなくする悪霊であった。悪霊が出て行くと、口の利けない人がものを言い始めたので、群衆は驚嘆した。しかし、中には、「あの男は悪霊の頭ベルゼブルの力で悪霊を追い出している」と言う者や、イエスを試そうとして、天からのしるしを求める者がいた。しかし、イエスは彼らの心を見抜いて言われた。「内輪で争えば、どんな国でも荒れ果て、家は重なり合って倒れてしまう。あなたたちは、わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出していると言うけれども、サタンが内輪もめすれば、どうしてその国は成り立って行くだろうか。わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出すのなら、あなたたちの仲間は何の力で追い出すのか。だから、彼ら自身があなたたちを裁く者となる。しかし、わたしが神の指で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ。強い人が武装して自分の屋敷を守っているときには、その持ち物は安全である。しかし、もっと強い者が襲って来てこの人に勝つと、頼みの武具をすべて奪い取り、分捕り品を分配する。わたしに味方しない者はわたしに敵対し、わたしと一緒に集めない者は散らしている。」

- 24:「汚れた霊は、人から出て行くと、砂漠をうろつき、休む場所を探すが、見つからない。それで、『出て来たわが家に戻ろう』と言う。そして、戻ってみると、家は掃除をして、整えられていた。そこで、出かけて行き、自分よりも悪いほかの七つの霊を連れて来て、中に入り込んで、住み着く。そうなると、その人の後の状態は前よりも悪くなる。」